

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 白沢 小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に積極的に発信していく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てるために、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 43人

② 算数 43人

5 留意事項

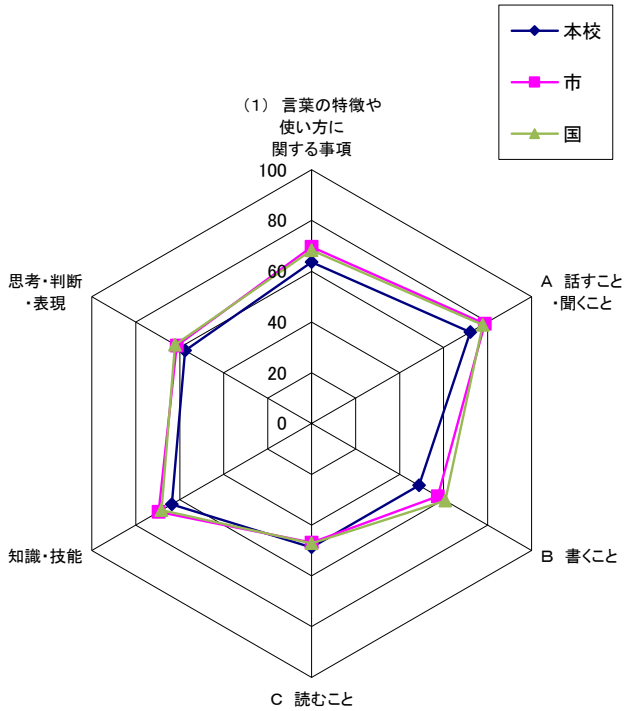
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立白沢小学校第6学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	63.6	69.6	68.3
	(2) 情報の扱いに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	72.1	78.7	77.8
	B 書くこと	48.8	57.3	60.7
	C 読むこと	48.8	46.9	47.2
観点	知識・技能	63.6	69.6	68.3
	思考・判断・表現	57.6	61.4	62.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

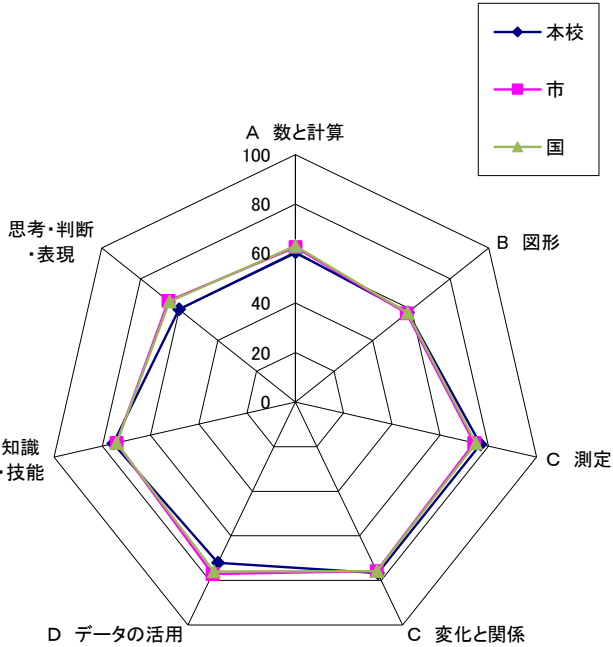
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	平均正答率は63%で、市平均より6ポイント下回った。 ○文章中の語句の意味を理解し、同じ使い方として適切なものを選ぶことができた。自分の考えなど書く学習をする機会を設定してきた成果であると考えられる。 ●漢字などの基礎的な言語理解や、主語・述語・修飾語などの文法の理解に課題が見られる。また、無解答率が高いことも課題になる。	・今後も自分の考えをノートに書く学習を取り入れ、学年に応じて使えるようにしていきたい。 ・漢字や語句、熟語などの理解を深めるため、国語辞典や漢字辞典の活用を習慣化させる。 ・小テストやAIDリルを活用し、正しい漢字の習得の定着につながるよう継続的に取り組む。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は72.1%で、市平均を6.6ポイント下回った。 ○目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える問題の正答率は76.7%であった。文章の構成を考えることができていた。 ○資料を用いた目的を答える問題の正答率は72.1%であった。資料を用いる目的を捉えることができていた。 ●目的や意図に応じ、資料を使って話す問題の正答率は67.4%で、全国平均を大きく下回っている。資料を読み取り、表現することに課題が見られる。	・社会科や総合的な学習の時間との関連を図りながら、さまざまな資料を読み取り、資料について説明する活動を多く取り入れていく。 ・スピーチでは、聞き手に分かりやすい構成を考えたり、目的に応じて適切な資料を選択したりすることができるように指導する。
B 書くこと	国語A、Bともに市の平均正答率を下回った。 ●目的や意図に応じ、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題では、正答率が41.9%である。	・相手を説得させる文章を書くときに、読み手や目的を明確にしながら、書く必要のある事柄を選んだり、書く内容を工夫したりすることができるように指導する。 ・文章を書くときに、文章全体の構成や展開を考え、自分の主張が明確に伝わるように指導する。
C 読むこと	国語A、Bともに市の平均正答率を上回った。 ●「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する問題」「目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける問題」では、市の平均よりは上回っているものの、正答率が34.9%であり、課題が見られる。	・本や新聞、雑誌、インターネットなど様々なメディアから情報を得る際は、目的に応じて、中心となる語や文を捉え、必要な情報を見付けて読む能力を更に育成する。 ・物語だけではなく、さまざまな読み物にも興味をもつよう、読書を奨励したり、読む機会を設けたりする。

宇都宮市立白沢小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	60.5	62.6	63.1
	B 図形	58.1	57.5	57.9
	C 測定	76.7	74.1	74.8
	C 変化と関係	76.7	75.8	75.9
	D データの活用	72.1	77.1	76.0
観点	知識・技能	75.5	74.1	74.1
	思考・判断・表現	60.1	65.6	65.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は60.5%で、市平均より2.1ポイント低い。 ○示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断する問題がよくできていた。無回答率も0%だった。 ●二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述する問題の正答率が低かった。	・基本的な四則計算はできるが、示された計算の仕方を解釈して、さらに計算したり計算の仕方を記述したりする問題に対しては課題がある。文章題などを活用し、立式や数字の表す意味を考える学習を取り入れ、課題解決の力の定着を図る。 ・商が1より小さくなる計算に課題があった。答えが整数ではなく、小数や分数になるような問題にも、積極的に取り組ませて、課題解決の定着を図る。
B 図形	平均正答率は58.1%で、市平均より0.6ポイント高い。 ○直角三角形の面積を求めることや直角三角形を組み合わせた図形の面積を求めることができている。 ●二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方を記述する問題は、無回答率が高く、記述を苦手としていることが分かる。	・公式を使って面積を求めるなどの基本的な求め方の定着をさらに図る。 ・自分の考えを言葉や式、図を使って説明する学習を多く設定し、記述をして説明する力を育てるようにする。 ・箱を実際に開いてみたり、図形の動画を見たりするなどの授業を展開し、視覚的に図形の特徴を理解できるようにする。
C 測定	平均正答率は76.7%で、市平均より1.9ポイント高い。 ○「二つのコースの道のりの差の求め方と答えを書く」設問では、二つ道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを正確に記述することができている。	・距離を求める応用問題に取り組み、立式や数字の表す意味や求め方について考えさせるようにさせる。 ・自分で考えたことや、伝えたいことを明確にして式や言葉で表す活動を増やし、友だちとの情報交換などで多くの表現を学び合うようにする。
C 変化と関係	平均正答率は76.7%で、市平均より0.9ポイント高い。 ○「速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察すること」については、正答率が79.1%と高く、また「速さと道のりを基に時間を求める式に表すこと」についても、正答率が86.0%と高い値であった。 ●「速さを求める除法の式と商の意味」について理解しているかを問う設問では、正答率が65.1%であり、立式はできるものの、その商が何を意味しているのかについて理解が曖昧な傾向がある。	・速さや割合、単位量当たりの大きさの学習では、立式はできても商が何を表すのか理解が曖昧になってしまう児童も多いので、立式する前に数直線に表す活動を意図的に取り入れたり、図に表す活動を取り入れたり、単位を意識させたりして、問題や商の意味を確実に読み取る力を身に付けられるよう、計画的・継続的に指導を行っていく。
D データの活用	平均正答率は72.1%で、市平均より5ポイント低い。 ○データを表に整理することがよくできている。 ●適切なデータを選んだり、データを比較して割合を求める問題場面への理解に課題が見られ、正答率は44.2%となっている。	・今後も、データの見方や表などからデータを読み取ることなど基本的な知識の定着に向けた学習を継続する。 ・整理したデータは何を示しているのか、集めたデータから分かることは何かなど、話し合う学習を通して問題場面の背景を理解し、情報を整理する力を身に付けさせたい。

宇都宮市立白沢小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○算数について「好き」「大切」「内容がよく分かる」と肯定的回答をした児童の割合が多く、算数の学習に前向きに取り組んでいることが分かる。粘り強く考えることや公式のわけを理解するようにすることに関しても肯定的回答をした児童の割合が高いことから、多角的・多面的にとらえて問題解決を図ることができるような活動を継続していきたい。

○新型コロナウイルスの感染拡大での休校中に「計画的に学習を続けることができた」「規則正しい生活を送っていた」と回答した児童の割合が7割をこえており、家庭での生活習慣が身に付いている様子が見られた。今後も、家庭で学習する習慣を意識して継続できるよう指導にあたっていく。

○「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している」と回答した児童の割合は86.6%であった。また、「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」でも91.1%が肯定的回答をした。何事にも前向きに取り組む様子がうかがえる。学習だけでなく、特別活動・学校行事などの様々な場面で、自分から進んで挑戦できるよう、指導を継続していきたい。

●「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書しますか」の質問に「10分より少ない・全くしない」と回答した児童の割合が37.8%で、本を読む習慣が付いておらず、読書への関心が低いことが分かる。家庭にある本の冊数も少ない様子が見られることから、学級文庫や巡回図書の活用、図書委員会による読み聞かせなどを行い、読書の魅力や大切さを児童に伝えながら、読書への興味・関心の向上につなげたい。

●5年生までに受けた授業に関する項目で「自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていた」「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」児童の肯定的回答がやや低い傾向が見られた。今後、様々な教育活動において、児童自身が創意工夫を凝らして意欲的に活動できるよう、児童会活動なども生かして、全校体制で指導していきたい。

宇都宮市立白沢小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業における話し合い活動の充実	全ての学年・クラスで、発達段階や場面に合わせて、ペア・トリプル・グループの話し合い活動を多く取り入れ、表現の仕方を指導している。	目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える問題は比較的できていた。 目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書くことについては、課題が見られた。
基礎基本の定着を図る朝の学習の充実	朝の学習では、曜日を決めて、国語・算数の基礎基本の定着を図るよう、漢字や計算問題の繰り返し学習を行っている。	国語では、「読むこと」は比較的できているが、「書くこと」や「言語事項」に課題が見られた。 算数では、基本的な四則計算や公式を使って面積を求める問題などは比較的できているが、応用的な文章問題やデータ活用などに課題が見られた。
家庭学習の習慣化に向けた指導の充実及び家庭との連携	学年に応じて取り組むべく家庭学習の時間と家庭学習のやり方を示して指導するとともに、全家庭に周知し、保護者の協力を得るようにしている。	休校中に「計画的に学習を続けることができた」「規則正しい生活を送っていた」と回答した児童の割合が7割をこえており、家庭での生活習慣が身に付いている様子が見られた。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、書くこと」や、漢字・語句・文法等の「言語事項」に課題が見られた。また、本を読む習慣が付いておらず、読書への関心が低い傾向が見られた。	語彙力を強化するための読書活動の充実	全校を通して「奨励図書」を示し、読書記録のやり方を改善していくことで、読書内容の充実と読書量の増加を促し、語彙力の強化を図れるようにする。また、朝の学習や家庭学習の取組を引き続き充実させていく。